

「若手農業経営者として奮闘するネパール出身のミニトマト栽培農家～ラマ・カンチャさん～」
(放送内容より)

ラマさんは、2008年四日市大学に入学し金融政策を学んでいましたが、日本の野菜の値段が高いことなどから日本の農業に関心を抱くようになりました。そして、日本の食料自給率40%、急速に進む農村の過疎化や農業人口の減少を憂い、生きる糧としての農作物が確保できれば、生活の安定と安心が保証されると考え、農業の再生をしたいと考えるようになりました。

奥さんの出身地である唐津市に移り住んだラマさんは、4年前からミニトマトの栽培をしています。しかし、農業を勉強し始めた当初は、ラマさんには外国人であるということが大きな壁となりました。日本の農地法では、外国人が農業経営をするということは簡単ではありませんでした。その壁を乗り越えるため、地域にとけ込もうと農家と積極的に交流をし、2年の歳月をかけ、やっと農地を確保することができました。昨年からは有機栽培にも挑戦しています。

ラマさんは、若手農家との勉強会にも積極的に参加、母国ネパールの農業の活性化に貢献したいとSNSを通して栽培方法などをアドバイス、若手農業経営者として地元の人たちや母国の友人たちから信頼を得ています。

日本の農業にどのように貢献したいかについては、「一つは、自然循環を守る。そして地域で密着した会話を心がけ、素直に頑張る姿を見せれば、周りの人たちも優しく接してくれ住み易くなる。もう一つは、10年後の農家の件数減少が心配で、そうならないために、地域の方々とどう連携するかが一番の課題であると考えている。年上の経験者の方、祖先から受け継いだ素晴らしい知恵を私達若い世代が受け継がないと無駄になってしまう。経験と持っている知恵を吸収し、次の世代に引き継いでいくことが使命である。」と、ラマさんは語っています。

日本の農業に貢献したいと語るラマ・カンチャさん、これからもひたむきに農業に向き合っていられることでしょう。